

教え子のYさんからの情報により、Y先生が現在梁川の地にお住まいであることがわかった。私が中学校に入学したとき、緊張しながら教室の自分の席に座った。覚えていないがきっとそうだったと思う。目の前に立っている先生がY先生だった。私の中学1年生のときの担任の先生だった。

勉強よりもはるかに楽しみにしていた部活動は軟式テニス（現ソフトテニス）部に入った。テニスコートに行くと自分の担任の先生がいた。Y先生は保健体育の先生だった。担任は1年生のときだけだったが、部活動は3年間お世話になった。この部活動でのY先生との出会いが、その後の自分の人生を大きく左右することなど、あの当時は考える由もなかった。

あの頃の私は部活動が楽しみで楽しみで仕方がなかった。帰りの学活が終わるとダッシュでテニスコートに行った。1年生なのでボール拾いが主だったが、誰よりも一生懸命ボールを拾った。そして、ボールを拾いながら先輩方のボールの打ち方などをよく観察していた。幸いにも3年生に支部新人大会の優勝ペアがいた。きれいな打ち方だった。

たまに1年生がボールを打たせてもらえるときがあった。声がかかると私は一目散に集合した。そして、日頃からイメージしている通りにボールを打った。すると、うまい具合にボールが飛んでいった。支部中体連大会が近づいてきた。Y先生が「1年生の中から頑張っている人を3人大会につれていく」という話をしてくださった。俄然今まで以上にボール拾いや準備、後片付けに熱が入った。いよいよ3人の発表日がやってきた。私はドキドキだった。名前を呼ばれた。うれしかった。後でわかるのだが、名前を呼ばれた3人は、その後主力選手として活躍することになるメンバーだった。振り返ると、あのとき名前を呼ばれたことが、中学時代の部活動の原動力になったと思う。

Y先生は、決して大きな声を出すわけでもなく、私たちに基本的なオーソドックスなソフトテニスを教えてくれた。今思うと同級生に恵まれていた。メンバーがよかった。支部新人大会で団体も個人も優勝できた。Y先生はあの当時口にはしなかったが、県大会上位をねらっていたと思う。ただ当時は、新人大会が支部大会までで県北大会も県大会もなかったのも、全く状況がわからなかった。果たして我々は県大会に行くほどの程度なのかがわからなかった。

我々が3年生になり、5月の大型連休に西郷村の西郷第一中学校に練習試合につれていってもらった。そんなことは初めてだった。向こうは全国に名の知れた強豪校である。我々はそんなことも知らなかった。練習試合の相手をしてくれた西郷第一中学校は、ペアの片方が妙に小さかった。さほど上手でもない。途中でわかったのだが、1年生と2・3年生を組ませていたのである。中学に入ってわずか1か月で試合ができるのである。信じられなかった。私の中学1年の連休はというと、ボール拾いのスペシャリストだった。雲泥の差である。脅威の1年生たちだった。このメンバーが2年後の全国大会優勝メンバーとなる。

今でもY先生に謝りたいことがある。我々は3年生の中体連大会で支部大会、県北大会と優勝し、会津若松での県大会に臨んだ。初戦を突破し、3回戦だった。私は相手の選手の大きな体格に威圧感を感じ、気持ちで逃げてしまった。攻めていけなかった。何とかテクニックでかわそうとしたが、大事な試合ほど勢いがあるほうが勝つ。私は勝負をせずに負けた。結果、チームも負けた。ベスト8で終わった。やるだけやって負けたのなら仕方がない。そうではなく最悪の負け方をしてしまった。今でも悔やんでいる。Y先生とチームに申し訳なかった。福島から初めて父親が応援に来てくれた。初めて息子の試合を見たのである。情けなかった。優勝したのは我々が支部大会、県北大会といつも勝っていた学校だった。意気消沈して帰路に就いた頃、閉会式では試合態度やマナーがよい学校として我々の学校の名前が挙げられたそうである。これもY先生のおかげである。

紙面がつきた。次号に続ける。